

しょうなんこう ■小楠公墓所から資料館 正行散策コース

くすのきまきつら
伝楠正行墓 (大阪府指定史跡)
南北朝時代に、四條畷の戦いで討ち死にした正行の墓所。巨大な墓石の字は大久保利通のもの。
(樹齢570年のクスの木は大阪府天然記念物)

かりや
雁屋遺跡
弥生時代前期～後期の拠点集落です。方形周溝墓から男性人骨が完全な姿で見つかりました。

歴史民俗資料館
イラストでわかりやすく解説。大阪府・市指定の文化財も展示しています。(民俗資料展示室の土蔵建造物は国登録有形文化財)

なかの
中野共同墓地 (全長62mの前方後円墳)
戦国時代の十三仏塔2基が見られます。

わたのりんしゅう
伝和田賢秀墓 (大阪府指定史跡)
楠正行のいとこ。四條畷の戦いで戦死。敵に殺されてもヨロイにかみついて放さなかったことから
壺の神様として親しまれました。

しじょうなわて
四條畷神社 (楠正行と一族をまつる)
南北朝時代、四條畷の戦いで戦死した楠正行一族を祀っています。春はサクラが見事です。



か
クスの香さわやか
歩けば歴史がみえ



■民話を訪ねる

がんこう
雁塚(塚)に伝わる民話
「こりゃ～なんだ・・・？」猟師が撃ちおとしたカモをよく見ると、メスカモの首を抱いているではありませんか。その首は、以前に撃ち落したカモでした。「このカモは夫婦だったんだ」

みるくじ しりとりかんのん
弥勒寺の舍利吹観音に伝わる民話
美しい音羽の顔一面に吹き出物。観音様におすがりすると、娘の顔は元どおりの美しい顔。観音様を見上げると胸元に舍利が吹きでていました。

こんばん りゅうひし
権現の滝・龍尾寺に伝わる民話
干ばつで困っていた村を行基さんが通りかかりました。権現の滝で雨乞いのお経をとなえと、たちまち雨が降りだしました。田畑はうるおいましたが、龍王にそむいて雨を降らした若い龍の体は3つに裂けてしまいました。尻尾が落ちた場所が龍尾寺です。

てるわきおおいど
照浦大井戸に伝わる民話
「お茶を・・・どうぞ・・・」身なりのみすばらしいお坊さんに、井戸をさしあげました。それ以来、どんな千戸の水は枯れることなくコンコンとおになりました。あのお坊さんは弘法大

しじょうなわて
四條畷市立歴史民俗資料館



子馬形埴輪 古墳時代・忍ヶ丘駅前遺跡

- 開館時間：9時30分～17時 ■入館料：無料
- 休館日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）・年末年始ほか
- 施設案内（駐車場6台・身障者用トイレ有）
- 1F 埋蔵文化財展示室・民俗資料展示室（国登録有形文化財）
- 2F 研修室

〒575-0024 大阪府四條畷市塚脇町3-7
 JR 学研都市線 四條畷駅下車 北へ10分
 Tel 072-878-4558
 Fax 072-878-4583
<http://www.shijonawate-rekishijp/>

指定管理者：株式会社 日立ビルシステム 平成24(2012)年1月制作



四條畷の歴史

古代の四條畷の地形は、西側が大阪湾に続く海にたたり湖だったりしました。その名残が大東市の深北緑地です。今の外環状線あたりが水陸だったと考えられています。



深鉢 縄文時代 更良岡山遺跡
 突起がついて個性的なデザインです

1 ■豊かな自然 旧石器～縄文時代

今から二万年前の旧石器時代はとても寒く、凍りついた時代でした。縄文時代になると温暖な気候となり、今の外環状線まで海（河内湾）が迫っていました。縄文時代の当市は東に生駒山系、西側に海が広がり自然に恵まれていました。讚良川流域の更良岡山遺跡の人々は豊かな暮らしをしていたのでしょうか、大量の土器や石器をはじめ、野山の恵みや子孫繁栄を願う様々な祈りの道具が出土しています。



「生けにえ」にされた馬の首 奈良井遺跡 古墳時代
 当時は蒙古系の小さな馬でした。（体高125㎝程度）

奈良井遺跡や鎌田遺跡では馬を「生けにえ」にして祀りをしていました。馬飼いは、山裾などに古墳を造り、馬も埋葬していました。埴輪も古墳や村に立てられました。当時の四條畷は、山と湖にはさまれ、川が流れ、適度な斜面を持つ環境でした。馬を飼育するのに適していたのでしょうか。馬は王朝などに供給され、軍事・通信・運輸などで活躍し、国づくりに欠かせない存在になっていきました。



馬形埴輪
 南山下遺跡 古墳時代
 ずんぐりした体形で、蒙古系の馬の特徴を備えています

3 ■馬飼いの里 古墳時代

倭国大乱を経て、いつしか大和に権力が集中し、原初的な国のみとまりが見られるようになりました。大王や豪族と呼ばれる人々が現れ小山のような墓（古墳）を造りました。その頃、四條畷でも忍岡古墳が造られました。古墳の石室は覆屋で保存されていて見学することができます。古墳時代の中ごろには、朝鮮半島から河内に最新技術が伝わりました。四條畷には、馬と飼育技術が伝わり、渡来人やその子孫が馬を育てていました。この頃、河内湾は淡水の河内湖になっていました。水際に近い葦屋北遺跡（なわて水みらいセンター）では準構造船をリサイクルした井戸や、埋葬された馬一体分の骨が見つかっています。堅穴住居が多数出土し、渡来系の馬飼いが住んでいました。センター敷地内には、遺跡の説明板が設置され公開しています。